

Tsubasa Seasons

第58回日本痛風・尿酸核酸学会総会に就任しました

この度、第58回日本痛風・尿酸核酸学会総会 会長を仰せつかり、2025年2月20日（木）・21日（金）に東京の両国にあります「国際ファッションセンタービル KFC Hall & Rooms」で開催することになりました。テーマは「遺伝と環境への総合的アプローチ」といたしました。ポスターデザインは、華やかな江戸の文化を色濃く残す両国という地を意識して「痛風発作に驚く写楽」をモチーフとして作成いたしました。

痛風や尿酸についての基礎的、臨床的な研究を行っている学術組織として日本痛風・尿酸核酸学会があるのをご存じでしょうか。日本痛風・尿酸核酸学会は、昭和52年に「尿酸研究会」として発足し、昭和63年には学会組織となり「日本プリン・ピリミジン代謝学会」、平成11年に「日本痛風・核酸代謝学会」と改称して活動してきました。さらに最近の尿酸研究の発展を踏まえて、平成31年に「日本痛風・尿酸核酸学会」と改称して現在に至っています。



遺伝と環境への総合的アプローチ

本学会の特徴は、基礎研究者と臨床研究者が一堂に会して同じテーマを議論することにより、新しい知見を世界に先駆けて発表してきたことです。そこで今回のテーマは「遺伝と環境への総合的アプローチ」といたしました。このテーマのもとで、痛風や高尿酸血症の発症や進行において、遺伝と食生活や運動習慣などの環境因子がどのような関わっているかを総合的にアプローチすることにより、痛風・尿酸代謝疾患の予防・治療につながる価値ある情報が得られる可能性があります。

さらに他職種との連携や協働による総合的な治療の推進を目指します。例えば、薬剤師や管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士、スポーツトレーナーとの連携により、遺伝情報にもとづいた適切な薬物治療や食事、運動のアドバイスを行い、医師との連携により個々の患者に最適な管理などを行うことが考えられます。また、このテーマに関する研究は生活の質や健康に対する意識を高め、社会全体の健康増進につながることを期待されます。

本学術総会の内容としては、特別講演として東京大学の鎌谷洋一郎教授をお招きして「複雑形質ゲノム解析」についてお話していただく予定です。また、教育講演では聖マリアンナ医科大学の小林泰之教授をお招きして「医療におけるAI/ICT活用」についてのご講演を予定しています。その他、「遺伝と環境」についてのシンポジウムやダイバーシティ委員会が企画するシンポジウムを予定しています。また、一般演題（口演、ポスター）ならびに企業共催セミナーも予定しており、患者さんなどを対象とした講演会などは行いませんが、総会の成果が日常の診療や指導に生かされるものと期待しています。医療関係者の皆様方におかれましてはふるってのご参加をお願い致します。



大山博司
両国東口クリニック 理事長

T's Energyの利用料が医療費控除対象に！

2023年10月より《メディカルフィットネスT's Energy》が厚生労働省指定の医療費控除対象施設になりました！この指定を受けた施設では、医師の指示に基づく運動療法を実施する際、必要となる健康増進施設の利用料について所得税の医療費控除が適用されます。

昨年11月にはメディカルフィットネス、健康増進施設推進議員連盟の先生方が視察にいらっしゃいました。

このような活動から日本中に健康増進施設が増え、日本が元気になるように邁進してまいります。



マイナンバーで保険証確認

つばさクリニックでは、3月からマイナンバーカードを利用した保険証確認を開始いたしました。令和6年秋以降、紙での保険証が廃止されることに伴い、3F透析室受付にも設置しており、顔認証付きカードリーダーの機械で保険情報を読み込みます。

全ての保険情報がカードに入っているわけではないので、今まで通り医療証もご持参頂くこととなりますが、オンライン資格確認により、薬剤情報、特定健診情報、その他必要な診療情報を取得・活用することでより質の高い医療の提供に努めてまいります。申請方法はオンライン・郵送・まちなかの証明写真機ですることが出来ますので、お住まいの役所に問い合わせをいただき、申請手続きをお願いいたします。

納豆は痛風に良くない！？

あるテレビ番組で著名人が納豆を食べすぎて痛風を発症したとの発信により、栄養相談で質問を受けるようになりました。当院の痛風患者様を対象に、納豆の摂取習慣と尿酸代謝の影響を検討したところ、納豆を週5日以上食すグループと全く食さないグループでは、尿酸値・尿中尿酸排泄量に差はみられず、1日1パックの摂取では尿酸代謝への影響は少ないと示唆されました。また、第57回痛風・尿酸核酸学会で当院管理栄養士が報告をしました。

高尿酸血症・痛風の治療ガイドラインに記載されている1982年に測定された納豆100gあたりのプリン体量は113.9mgですが、帝京平成大学金子希代子教授らの研究では約半量（56.6mg/100g）と第56回日本痛風・尿酸核酸学会で報告されました。市販納豆1パック40gに換算するとプリン体量22.6mgであり、プリン体の少ない食品に分類されます。食物繊維豊富で低脂質な健康食品「納豆」は肉や魚に代わるメインのおかずとして1日1パックの摂取がおすすめです。



= 編集後記 =

寒さの中にも、少しずつ春の暖かい日差しが感じられるようになりました。新年度に向けて新たな目標設定をしてみたいはいかがでしょうか？